

カトリック 仙台教区報

2009年7月5日 No.188
発行
カトリック仙台司教区
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378
発行責任 広報委員会
URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

後藤寿庵の遺徳に感謝して

水沢教会主催で「春の後藤寿庵大祈願祭」

復活祭を迎える季節になると、寿庵堰に水が流れ、5月には胆沢（いさわ）平野一帯が緑に染まっています。

後藤寿庵は、出生も最期も定かでないが、五島列島の宇久島に渡って洗礼をうけ「ジオアン（ヨハネ）」の霊名を受け、以後姓を五島（後に後藤と改名）、名を寿庵と称したといわれる。

約400年前、伊達政宗の家臣として、1612年1200石を与えられ現在の水沢市福原の領主となった。水不足に苦しんでいた農民を救おうと胆沢川から水を引く堰を完成させ、胆沢の荒れた原野を岩手県一といわれるほどの穀倉地帯となる基礎を築いた。この堰は「寿庵堰」と呼ばれ地域の人々から今なお感謝と尊敬の念を集めている。

今年の「春の後藤寿庵大祈願祭」は水沢教会の主催で、5月31日（日）の聖霊降臨祭の日に胆沢平野土地改良区の一室で行われた。奥州市長、市議会議長をはじめ地域住民や、一関、北上、花巻、上堂の各教会信徒らおよそ110名が参列した。

ミサでは、佐藤守也神父が説教の後、田畑と参加者たちを祝別し、秋の豊かな実りを願い、祈りをささげた。最後に寿庵賛歌を参加者全員で歌った。

秋には、感謝祭が地元の主催で



行われることになっている。

同祭実行委員の千葉九子（あつこ）さんは、寿庵祭への思いを以下のように寄せてくれた。

9年間寿庵祭に尽力された佐藤修神父が花巻教会に異動し、佐藤守也神父が、一関から来て下さ

ることになり、参加者もほぼ例年並みとなりホッとした。

信徒たちも高齢になり祭りの運営も大変になってきたが、地元の方々、特に福原（福音の原の意で寿庵が命名）の老人クラブの下さつたり、胆沢土地改良区の若い力など、多くの方々が力を貸してくださった。地元の方々の後藤寿庵を顕彰する思いが察せられる。

かつては、神社が行ってきたこの祭りを教会が主催して行うようになって、年を迎えようとしている。1950年にヨセフ・フグンドブレール神父（ベトレヘム外国宣教会）が一関教会の信徒の協力で始めたのが第1回の寿庵祭だった。ヨセフ神父は、人生のすべてを岩手県の司牧に尽力し、6月半ばに休暇でスイスへ帰国された。寿庵祭を行うことで福原地区民と教会信徒が寿庵の水に結ばれている。感謝の気持ちをお忘れず、これからも寿庵を顕彰していきたい。

また、昨年 月に列福された。ペトロ岐部神父は、水沢地区宣教のさなかに捕らえられ江戸で殉教している。「後藤寿庵とペトロ岐部神父」について近い将来寿庵祭で講話が出来るよう準備している。

生命の泉

2006年4月に「内部告発者を守る法」が施行されて3年経った。さる6月8日テレビのアンケートで56%の人は外部に自分の知りえた内部の恥をさらけ出すことをためらうと答えたそうだ。▼それでも食品の偽装、病院の不正請求、公共工事の不正入札など内部からしか出てこないと思われる不正が明るみになることが多くなってきた。「体制の中に正義あり」という発想に慣らされてきた私たちの思考パターンが変わりつつあるのだろうか。外に漏らす内部の不满分子としてではなく、内部の透明性を高め、外に勇氣ある行動によって社会を変えて行く預言者的な行動をとり得るか。▼私たちは社会の中で、「小さな群れ」ではないが、体制の中に埋没することなく「地の塩」として生きよというみことばに励まされている。

(守)

【訂正】教区報187号「生命の泉」冒頭で、鯖江豊の「肉食の思想」と書きましたが、同書の著者は鯖田豊之でした。訂正してお詫びいたします。

三経塚に聖歌流れて

全国から120名が集う

第26回目の東和町「キリシタン
の里まつり」が今年も6月7日
(日)に開催された。

二日続いた雨も奇跡的に晴れ、
20年間連続となる青空ミサが「三
経塚史跡会場」で行われた写真。

今年、白河教会を中心とした
巡礼団が参加、また札幌、盛岡、
東京、京都、大阪、遠方の熊本か
らの参加者もあった。石巻教会か
らは子供たちも参加し山頂は厳
かな中にも賑わいが感じられた。

東和町の自治体の理解を

得て継続されているこのミ
サと祭りは、登米市内にお

いても次第に認知され、大籠と米
川のキリシタン遺跡の重要性が
認められるようになってきた。

ミサの主司式をつとめた高橋
昌神父は説教で東北各地におけ
る殉教の歴史を話された。

資料が乏しい米川の殉教の歴
史ではあるが、一生をかけて研究
していききたいものだと、心に湧き
あがるものを感じたミサであつ
た。(米川教会 佐藤憲一)



宮城県カトリック大会の企画・準備をして 宮城県カトリック教会連絡協議会 前会長 岡田 耕二 (八木山教会)

例年、宮城県カトリック
ク教会連絡協議会は、県
大会が終了した翌月(通
常8月)に例会を開き、
大会の反省がなされ、さ
らに翌年の大会に向け
て準備が開始されます。

今年度の大会準備も
昨年の8月上旬から今
年の5月まで、それぞれ
3回の例会と役員会を
開き、全小教区からアン
ケート結果と協議会委
員の意見を合わせて、大
会テーマと内容、開催地
を決定しました。今回
の大会では、「活性化
研修会のテーマに関
連したものを引き続
き大会テーマ
に」との意見も
ありましたが、
「県内教会、信
徒間の交流を
深める工夫を
してほしい」
「肩の凝らな
い楽しい県大
会にしてほし
い」との声も多
く寄せられ、協
議の結果、「県
内の信徒が一
つの場所に集
まり、ミサを
ささげること

第37回カトリック宮城県大会 大会テーマ

「共に集い、語り、祈る」
日時 2009年7月5日(日)

午前 時午後3時 分
会場 石巻市民会館
講演 「文倉常長と宮城のキリシタン」
講師 伊達宗弘(前宮城県図書館長)

大会ミサ 主司式 平賀徹夫司教
他に「ごごものつどい」「中高生の
つどい」も併せて開催される。

司教日程 7・8月

- 7・2 ⑥ 社会司教委員会
- 5 ⑩ カトリック宮城県大会
- 8 ⑤ 9 東京教会管区会議
- 11 ① 社会司教委員会・仙台シンポジウム
- 14 ④ 司教協議会・教区司教団役員会
- 18 ① 宣教師司教協議会役員会
- 27 ⑨ 教区司教団月例会
- 28 ⑤ 29 岩手県カトリック教職員研修会
- 8・2 ⑩ 一本杉教会
- 9 ⑨ 平和を求めミサ(元寺小路)
- 18 ④ 青森県カトリック教職員研修会
- 19 ⑥ 福島県カトリック教職員研修会
- 22 ① エイス・ホスピス講演会(仙台)
- 23 ⑤ 24 部落差別人権委・夏季合宿
- 30 ⑩ 弘前教会・五所川原教会
- 31 ⑩ 仙台教区の司教集会

「キリスト信者の良心」

司教 マルチノ平賀徹夫



去る6月15日から20日まで 日本司教団の定例総会が
開かれました 6月28日付カトリック新聞で あるいはそれより早く
6月19日付の一般(朝日新聞)にも記事が っていましたから
お読みにな たかと思いますが 今総会の重大な議 の一つは「日
本の裁判員制度についての司教協議会の対応」という件でした 問題
の発 は カトリック教会法典には「聖職者は 国家権力の行使への
参与を伴う公職を受 することは じられる」(第285条第3)と
あるが 司祭や修道者が裁判員候 とな た場合どうすればいいか
という問いでした 司教協議会には「教会行政法制」を う委員会が
あ て その委員会から条文の解 についてバチカンに問い合わせを
し その回答をふまえて司祭・修道者向けと一般信徒向けに司教団と
しての対応を発表したのです

司祭・修道者には「裁判員候 とな た場合は(過料を てでも)
辞退することを める」ということになりました 一般信徒に対
しては ある意味で全く当然のことですが「各自がそれぞれの良心
に従 て対応するように」ということですが ぜひ「信徒の皆様へ」
というメッセージをお読みください

「各自が良心に従 て対応する」ことには二重の意味があります
まず 裁判員候 として選ばれた場合 受 するか受 しないか で
す「私は市民として キリスト者として 福音の精神に導かれて
地上の義務を忠実に果たすために受 する」という人もいます
う「ケースによ ては死 判決にも関わらざるを得ないこともあり
得るし 福音の精神を考えると受 することは良心的にできない」と
いう人もいます 各自がそのどちらの結論に たとしても
司教団はその対応を支持する と表明しました 次に 受 した場合
判決を考える際に従うべきキリスト信者としての良心 ということ
です そのキリスト信者の良心とは 人間・市民としての良心だけで
なく「いのちをやさしさとつくしみをも て見守る神のまなざし」
とつなが たものであ てほしい と司教団は期待しています

私たちは キリスト信者として福音の精神によ て良心をつちか
育て 社会の中のどんな場面にあ てても その良心に従 て生きてい
くわけです

集団で他人を排除する恐ろしさ 「ハンセン病市民学会」に学ぶ

5月9日・10日、鹿児島県鹿屋市の国立療養所で開催されたハンセン病市民学会に教区人権を考える委員会から、芳賀隆太郎（北仙台）・御供真人（一本杉教会）の両名が派遣されて参加した。今年にはハンセン病患者の隔離政策が進められてから百年。

新型コロナウイルスの国内感染が話題となり、感染者の診療拒否や隔離、誹謗中傷が行われる中で、誰かを排除して安心するのはなく、正しい知識と冷静な対応と、一人ひとりの権利を大切にすることを、ハンセン病問題の教訓から学ぶことが出来た。

大会には全国から約900人の参加者が集まり「隔離の百年から共生の明日へ」というテーマの下、9日は療養所入所者や国賠訴訟弁護団などのパネリストによる基調報告・シンポジウムを聴講し、10日の午前は「将来構想」についての分科会に参加。

入所者が高齢化する中、安心して



分科会のひとコマ

て余生を過ごせる医療・看護・介護体制の充実のため、一般市民が利用できる施設を併設するなど療養所を地域に開くことを目的としてハンセン病問題基本法が制定され、各療養所は基本法に基づき「将来構想」作りを行っている。

しかしずっと療養所に隔離されて暮らしてきた入所者が自ら「将来構想」を作ることは難しく、財政難で療養所職員は減り続け、療養所が維持されるのか、後遺症や高齢化で体の不自由度が増す中でケアが十分にされるのか、という不安を抱えている現状を、当事者の生の声で聞く機会を得た。

一般社会の理解と支持が必要である。

午後青年・学生部会に参加し、10代から30代までの20名ほどで語り合ったが、多くの若い人たちが熱心に活動していることに驚くとともに、同世代の交流が重い問題であっても敷居を低くする力になるし、関心を持つきっかけにもなる、と感じた。

ハンセン病は感染力が弱く、薬

で治る病気である。現在、療養所に入所している方は、みな病気が治った元患者であるにもかかわらず、わが国では、療養所に隔離する政策が続けた。

裁判で国が過ちを認めたが、すでに高齢化が進み、社会に復帰することが出来ない。

そして科学的に感染の恐れがないと分かっている現在でも、温泉旅館の宿泊を拒否され、さらに旅館の形式的な謝罪を拒否した元患者へ社会から誹謗中傷が寄せられた。（黒川温泉宿泊拒否事件）

苦しめられ被害を受けた側が行動を起こすと、お前たちはおとなしくしているという排除を、歪んだ正義感で行う人が今でもいるのが現実。

ハンセン病問題は過去のものではない。新型コロナウイルスやHIVなどの感染症や、強い立場や集団で意見の異なる人を排除する仕組みのように、教会を含む私たちの現在の問題と同じ構図である。

だからこそハンセン病問題を風化させずその教訓を学ぶことが大切である。

権力をもって、集団で、他人を排除することのおそろしさ。その空気がどう作られるのかわかり、よく自分の頭で考え、自分の心で判断して、次の排除を起

こさない、排除に加わらない、心の備えが必要。という考えによって、教区人権を考える委員会は、今、ハンセン病問題をテーマとして活動している。（人権を考える委員会 御供真人）

時をこえる「社会・自分」の責任
ハンセン病問題基本法が制定されましたがそれは決してゴールではなく、社会である私たちの意識を改めなければまた同じ過ちを繰り返すことになります。入所（退所）者の生活や親族への援助など保障はされていますが高齢化も進み、親族、友人、自分の実名をも奪われ何十年と療養所で生活していた方々はこの「社会・私たち」で暮らして行けるのでしょうか。今後この基本法がテレビや新聞などで取り上げられる機会が増えるほど「社会・私たち」が強制隔離された患者さんたちや差別事件、国が続けた（放置した）政策の歴史を学び、感じ、人とのコミュニケーションをとる感性・意義が問われるのではないのでしょうか。

無らい県運動では地域住民や教師つまり「社会・私たち」が発病者のあぶり出しに協力しました。何十年も療養所で暮らし「もう、放っておいてくれ」と言う入所者もいらつしやいます。そんな「社会・私・みなさん」にキラキ

ラした希望の未来を願う入所者の方もたくさんいらつしやることを忘れる事はできず、切なくもあり胸が突き上げられる思いです。

7月 日は元寺小路教会で人権シンポジウムが行われ、平賀司教のハンセン病問題のお話をはじめ多くの司教がいらつしやいます。私も手伝わさせていただきました。

今回の市民学会の報告や人権を考える委員会に少しでも関心をもっていただけの方がいらつしやればお気軽に声がけください。（人権を考える委員会 芳賀隆太郎）

（ ）内は前任地

教区司祭団異動(5月1日付)

（ ）内は前任地

青森県

横島健二 八戸塩町、鮫教会主任

（築館、米川主任）

佐々木博 大湊主任兼任

首藤正義 野辺地主任兼任

宮城県

川崎忠紀 築館、米川主任（八戸塩町、鮫町、大湊助任）

療養

氏家和仁 仙台司教館気付（八戸塩町、鮫町、大湊主任）

引退

高瀬和夫 仙台司教館（野辺地主任）

ヒゲの土井神父を偲んで



「髭の土井さん」の愛称で親しまれていたヨゼフ土井文雄神父は、5月

3日午前0時 分、入院先の光ヶ丘スperlマン病院で肝細胞癌のため帰天された。 歳。 通夜は、5月4日(月)午後

6時から梅津明生神父の司式で、葬儀・告別式は5日(火)午前 時から平賀徹夫司教の司式で、いずれも元寺小路教会大聖堂で執り行われた。

土井文雄神父は、1929年東京に生まれ、1956年司祭に叙階された。

元寺小路教会・豊屋丁教会・津谷教会・塩釜教会・湯本教会・大船渡教会・八戸教会・鮫教会などで司牧にあたり、晩年は病と闘いながら大湊教会の主任司祭をつとめる一方、仙台白百合学園・聖ウルスラ学院小学校で講師を務め、小さき花幼稚園・塩釜幼稚園・海の星幼稚園・八戸イメルダ幼稚園などで園長を歴任した。

1976年から1981年までは、司教総代理を元寺小路教会主任と兼務。

晩年、「俺は、死ぬまで大湊にいる」と豪語していたが、昨年 月、平賀司教の説得に従い

引退、司祭の家に移った。

もみあげから顎まで白い髭を伸ばし、ほほのあたりの髭を指でくるくるねじりながら話すのが癖で、サングラスの奥のやさしい目とは対照的に、豪快な笑い声と、大きなくしゃみが印象的だった。

土井神父様を偲び

八戸塩町教会 西田 昌弘

昨年3月、土井文雄神父様は、大湊の病院で危篤状態との連絡を受けました。見舞った人の話では食事も取れず、チューブに繋がれ寝たきりであるとのこと。どんなに苦しんでいるのかと思いつつ車で友人と病院に着き、長い廊下を急いで病室に向かうとベッドに神父様のお姿がありません。

廊下に看護師さんがいたので「向こうです」とのこと、そちらに向かうとそこは食堂。そこに神父様がスプーンを持って流動食を口に運んでいる姿にびっくり、狐につままれたとは



このことなので、お話しもつかりしっており、前日から起きだした食事を取

り始めたとのこと、友人と奇跡が起きたと神に感謝、感謝。

神父様はいつも笑顔で、八戸の誰がどうしているか?と尋ねられ、また私の体のことも心配して下さい、御見舞の言葉をいただきました。昨日まで寝たきりの人が人の心配までしてくれてと本当に頭が下がりました。写真は入院前に撮ったものです。神父様に感謝しつつ、ご冥福をお祈り申し上げます。

夕方に園庭をうろつく神父

大湊カトリック幼稚園 園長 大場繁夫

土井文雄神父様の大湊教会在任中は、病氣加療中であつたため、神父様と幼稚園相互に予定が立てにくく、園児のお泊まり保育と卒園式に出席いただいた程度で、園児のご父母も神父様を知っている方は極めて少数という関係でした。

そんな中、神父様は天候が許す限り司祭館から坂を登って幼稚園へと上がってこられ、園舎と園庭を一周し、司祭館に帰られるのが日課でした。

夏期は 時、冬期は 時

分と時間は正確で、初めは何をしていられるのか分からないものの、神父様の姿を見れば、掃除の時間が来たことを職員は知り、掃除に取り掛かったものでしたが、実はロザリオを繰りながらの「祈りの日課」であることが後日分かり、わたしを

含め、最初はいぶかしがっていた職員も、神父様の強い信仰心に深い感銘を受けたことが思い出されます。

田舎司祭

元寺小路教会 渡辺 清

ヒゲさんが元寺小路教会を担当していたとき、お客さんがよく見えていた。取り次ぐと、500円玉を渡すように指示された。なぜ、500円なのかと聞いたら、のり弁十ワンカップ代とのこと。お客さんは500円玉を受け取ると、玄関に散らかっている靴を全て出船に直し、深々とお辞儀をして帰って行った。

同じころ、司祭館の2階に島田実神父が住んでいて、コックさんが休みの日にはヒゲさんが食事を作っていた。一人での食事は味気ないものだから、お相伴するようにと言われ、何度か一緒にした。食卓には必ず5品が並べられていた。なぜ、5品なのかと聞いたら、「島田神父さんは口がこえるから、これ位の品数が必要なのだ」とのこと。気の使いようは、まるで嫁さんだった。

若いころに、JOC(カトリック青年労働者連盟)や正平協(カトリック正義と平和仙台協議会)の立ち上げに担当司祭として参加して下さり、活動と資金の両面をバックアップしてもらった。本当に力づけられ、励まされた。

ヒゲさんは田舎司祭、そのままのひとだったと思う。感謝するばかりです。

果たせなかった土井まんじゅう

八戸塩町教会 佐々木 浩

土井神父様は、途中下車なく終点の天国駅まで無事到着されたことと思います。本当に長い間お世話になり感謝を申し上げます。生前神父様は御自分の葬儀の際、会葬において下さった方々に「土井まんじゅう」と印されたまんじゅうを差し上げたいと希望されておりましたが、日程上果たせませんでした。ゴメンナサイ。

また、神父様の葬儀にお別れの言葉をと仙台の神父様からご依頼があり、ご挨拶の中で「神父様方は皆さんどうして頑固なんでしょう。特に土井神父様は頑固の上にクソがついて、クソ頑固でした」と申し上げてしまいました。

元寺小路教会での告別式、司教様はじめ仙台教区の全て神父様方、多くのシスター方の前で大変失礼極まる言葉を発してしまいました。前代未聞、反省と後悔です。

【写真＝葬儀ミサの司祭】

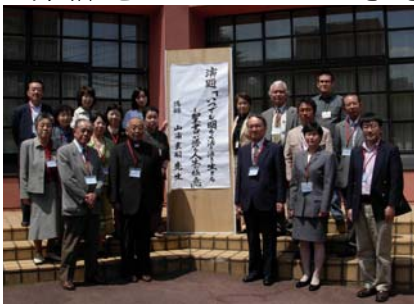


カトリック医師会

看護協会仙台支部 第一回交流会を盛岡で開催

6月14日カトリック医師会と看護協会の第一回仙台支部交流会が盛岡市四ツ家教会を会場として開催された。主日のミサ終了後、第一部として記念講演会が行われ、新約聖書(四福音書)をケセン語に翻訳をされた山浦玄嗣(はるつぐ)先生(大船渡教会)が「いつでも明るく活き活き生きる―聖書が語る人生の極意―」と題して話された。山浦先生はケセン語による語り朗読、ギリシヤ語原典の解説

を交え、現在の日本語訳聖書のなかでおいしいと思ったところを取り上げて、例えば、『永遠の命』という訳は日本語として適切でなく、原典を訳すと『いつでも明るく活き活きと生きる』が適切であり、イエスの教えは人を活き活きと明



るくするものだという。他の教会からも参加者があり、約80名の人が、熱い語り心と耳を傾けた。第二部は、カトリック医師会・看護協会仙台支部(青森・岩手・宮城)メンバーによる交流会が行われ、仙台以外での集まりは初の試みだったが、指導司祭である鷹嘴神父様を含めて総勢18人(医師会16名、看護協会3名、重複1名)が集まった。岩手県から6名、宮城県から12名が参加。昼食と記念撮影の後、戸田宏先生から昭和50年に盛岡でカトリック医師会が発足したことなど会の歴史について

の説明があり、次いで支部会長の藤村重文先生と早坂慶春先生が仙台での活動などについて話され、その後参加メンバーの自己紹介があった。普段顔を合わせることもないメンバーが集い、講演会の感想や各々の個人史・現況などについて話し合い、人数も時間も限られていたが、新旧のメンバーが互いに知り合う機会となり、新たな関係を築いていくための大切な一歩になった。今回交流会開催地として準備を下さった岩手県の諸先生方、会場準備などでご協力下さった四ツ家教会の皆様感謝。

から感謝の言葉が述べられた。続いて各団体の紹介と1年間の活動報告がなされた。日力連役員の改選があり、新会長に山口紀子(福岡)他役員の紹介があり、事務局も名古屋から福岡に引き継がれた。20日は副会長の阿部正子(仙台)から国際婦人年連絡会に出席しての報告があり、続いて基調講演「このよりのゆりかご」を通して「こゝろ」があり、熊本慈恵病院理事長蓮田太二氏・看護部長田尻由貴子氏から病院の現状、ケアの問題、今後の課題などが話され、「このよりのゆりかご」を通して親子が育つ家庭が一番大切で、親の愛と、心を育てることが大切だと強調された。昼食をはさんでの分かち合いの後、日出殉教公園に巡礼し、福者 加賀山半左衛門親子の強い信仰心に敬意を表し祈りをささげた(写真)。

パウロ年を終わるにあたって

聖パウロ女子修道会 青木 節子

この一年間に皆様もパウロに触れ、パウロから受けたものを感じられておられることと思います。

キリスト教徒を迫害していたパウロは、ダマスコ途上で復活されたキリストに出会ってからは、それまでの生き方、価値観を大きく変えられていった人です。ファリサイ派の律法学者として掟の遵守を厳しく守り、それを生きることで神からの救いがあると信じていましたので、十字架上で死んだキリストは律法を守ることをしない軽蔑に値する人物としてしか見ていませんでした。しかし、復活されたキリストの光は、

真昼の太陽の光を超える強烈なものでした。彼を稲妻のように打ちのめし、彼は神を見ます。「主よ、あなたはどなたですか」さらに「主よ、何をすることを望みますか」という言葉を口にします。この瞬間、パウロは、十字架につけられたキリストと、彼の前にいる栄光に満ちた主は同一人物であるということを悟ります。

パウロの生き方を完全に変えてしまったこの出来事は、いったい何をもたらしたのでしょうか。唯一の価値、イエス・キリストは彼のすべて、絶対的存在、人生と死に意味を与え、苦しみ、喜び、彼の生きる世界そのものになりました。完全にキリストに捕らえられてしまいます。「わたしは、キリストと共に十字

架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」(ガラテヤ2・20)わたしたちは、パウロが受けた同じ無償の愛を神が与えてくださっていることを感じているでしょうか。心の本当の喜びは、神に支えられ、神に満たされているということを自覚することから始まると思います。どんな所に行っても、何をしても、どんな状況の中にも、何とも神はわたしたちの内におられ、わたしたちのために働いてくださっています。信仰の喜び、神の愛に満たされ、家庭のなかで、共同体のなかで共に生き、励まし、支えあつてキリストの光を輝かすことができれば、教会共同体も変えられていくのではないのでしょうか。

日本カトリック女性団体連盟第35回大分大会

大会テーマ 〈輝く「いのち」を見つめて〉

(仙台支部 溝口 由美子) あけの星会長佐山淑子 5月19日から21日、大分別府湾ロイヤルホテルで開催された。全国13団体・賛助会員、世界カトリック女性団体連盟・日力連顧問 宮原良治司教(福岡教区)はじめ司祭8名を含め 264名が参加した。



19日は、開行行事に続いて年次総会が行われ、活発な質疑の後、「いのちを守る運動」基金の支援先である「光の園」、「ふきのとう」代表者を

最終日には派遣ミサがささげられ、宮原司教は大分別府湾で大会が開かれたことは日力連の二本柱である召命・家庭・いのちにふさわしく大きな意義があつたこと、信仰が生活の中に根ざして生きていくことは大切であると参加者を励ました。

日本カトリック平和旬間を思う

北仙台教会 芳賀 ヒロ子

79歳で世を去った叔母が残した、小さな冊子に、彼女の仙台空襲写真下りでの体験談をつづった一節が思い出されます。

1945年7月、突然の警報が鳴り、大きな黒コーモリの様な飛行機(B29写真上)と言っていました)が、上空にたかと思えば、頭上から焼夷弾(しようにい)が降ってきました。防空壕の中に逃げ込んだのもつかの間、入口から火の油が流れ込んで来る。無我夢中で壕からは出たものの、手も顔も皮



膚もボロ雑巾のよう。熱傷の痛みと、腐れたうみの悪臭。夜の暗闇でも、うつつら白く光るウジ虫の群れ。に垂れ下がる。助けを求めても、同じような人々が、泣きわめきながら、米ケ袋から向山方面に逃げた。：気が

がつくと 大学病院のベットの

今世界の戦場では、この話の幾数十倍もの苦悩が渦巻いているのでしょうか？ 教皇ヨハネ・パウロ2世写真下の1981年1月26日、広島平和スピール「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の破壊

聖マリア在俗会 近藤京子



私が在俗会に入ったきっかけとなったのは、月1回、修道院で行われるミサでアジアの人々との出会いでした。

その人たちは、日本に出嫁ぎに来て、皆夜中まで働いていました。日曜日も夕方から仕事があるにもかかわらず、午後3時のミサには沢山の方々が参加していました。そんな時、社会の中でキリストに従って生きたいという願望が強くなり、知人から、ある神父さまが在俗会を指導されているという話を聞き、そこで、聖マリア在俗会(前聖母

カテキスタ会)のを知りました。

私たちの会が「世にあつて、世の人々とともに、世をキリストの新しさに変えていく」という使命を持ち、社会の中で信徒の身分で三誓願を生

招きにくたえて

25

きる会」との説明を受けたとき、わたしが望んでいたのは正にこれだ！と強く感じ入会を希望しました。

会社勤めながら養成を受けるのは、正直言つてとても大変でした。でも、人々の中にあるキリストを見つけ、キリストの福音を生きる生き方

です。戦争は死です」を祈念するために、

「日本カトリック平和旬間」とすることを決めました。



の年頭書簡にも発表されたとおり、神が、人を神の似姿としてお創りになられたことを心に留め、一人ひとりを大切にすることを私たちは学びました。まさに戦争は、どんな理由があつたとしても、人類を踏みにする行為そのものでしょう。

現代社会の中で翻弄されながらも、キリストのゆく道のりを歩みたいのです。私一人の力は小さいのですが、キリスト共同体の交わりの中で希望と勇気を祈り求めます。

平和旬間関連行事

- ①7月12日(日) 13:00 「松浦悟郎司教平和講演会」 盛岡四ツ家教会
- ②7月15日(水) 18:30 「第18回核廃絶と平和を祈るミサ」(正平協仙台主催) 元寺小路教会小聖堂
- ③8月1日(土) 13:30 「川端純四郎さん講演会」(正平協仙台主催) 元寺小路教会1階ホール
- ④8月9日(日) 平和を求めるミサ(教区全教会でささげられます)
- ⑤8月27日(木) 18:00 「シスター弘田しずえさん講演会」(元寺小路教会1階ホール)

を現場で学ぶことは、とても分かりやすく大いなる喜びがありました。いつも神様がそばにいて助け神様が私を必要としている...という思いで走り続けました。4年後、初奉献(在俗奉献)の喜びを頂きました。その日、与えられたみ言葉は「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」Iテサロニケ5・16、18でした。初奉献から8年後、永久奉献の大きなお恵みを頂きました。日々、神様のみ手の中で、生かされ、関わり合う人々と共にキリストのお恵みを分かち合つて生きたいと思つています。

各地から

福島県 松木町教会

テゼの祈り

6月5日に福島市の松木町教会で聖霊降臨をテーマとした「テゼの祈り」をしました。心に残ったのは「聖霊がわたしの中で歌い、聖霊がわたしの中で祈る」という歌です。わたしが歌うのではなく、わたしの中の聖霊が歌っている。わたしが暗闇にいて歌えない時もわたしの中の聖霊は歌い続けている。疲れることなく、年をとることもなく、いつでも輝き続けている。わたしが祈る時、わたしの中の聖霊が祈っている。わたしが押しつぶされそうになっても折れない時もわたしの



告知板

- ★～シンポジウム～「すべての人の人権を大切に」
日時：2009年7月11日(土) 14:00～
会場：仙台教区カテドラル 元寺小路教会大聖堂
発題者：谷 大二 司教(さいたま教区) 菊地 功 司教(新潟教区)
平賀徹夫 司教(仙台教区)
司会：松浦 悟郎 司教(大阪教区)
主催：日本カトリック社会司教委員会
- ★第18回核廃絶と平和を祈るミサ
日時：2009年7月15日(水)
18:30/ロザリオの祈り 19:00/ミサ
(司式 ラシャペル・アンドレ神父)
会場：カトリック元寺小路教会 小聖堂
主催：カトリック正義と平和仙台協議会
連絡先：080-1827-8772 (渡辺)
- ★公開講演会 安らぎと平和をもたらすケアとは
ードイツ・エイズホスピスにみる心のケアー
講師：ティエレ・ケルコヴィウス氏
(エイズホスピス ハウスマリアフリーデン所長)
日時：2009年8月22日(土) 13:00～15:30 (開場 12:30)
会場：仙台市福祉プラザ 2階 ふれあいホール
参加費：1,500円
主催：NPO 法人 臨床パストラル教育センター 東北ブロック
問合せ：小野 TEL/FAX022-241-5029
- ★第10回仙台ロゴス研究所公開講演会
日時：2009年7月12日(日) 13:30～15:30
会場：カトリック北仙台教会 信徒館
演題：「近代における自然概念の誕生とガリレオ」
～世界天文年ガリレオ400周年に際して～
講師：原田雅樹神父(ドミニコ会士・仙台白百合女子大学准教授)
問合せ：カトリック北仙台教会 TEL022-234-8540
次回予定 第11回「カトリック三校のボランティア活動」(仮題)
第12回「中国の教会の昨今」(仮題)
- ★仙台ロゴス講座
日時：奇数月の第2土曜日 14:00～15:30
①9月12日②11月14日③1月9日④3月13日⑤
会場：カトリック北仙台教会 信徒館
①聖パウロの回心(土倉 相氏) ②洞窟のキリスト(佐野 督郎)
③筆と剣「東南アジアにおける太平洋戦時下の日本文学者の関与について」(アントニオ氏)
④幼稚園児に伝える「いのちの大切さ」(森本 幸子氏)
- ★仙台ロゴス定期勉強会
「地球を大切にする会」(偶数月の第3土曜日)
代表：猪岡 光氏(東北大学名誉教授)

聖霊は祈り続けている。聖霊来てください」(Veni Sancte Spiritus)と乞い求める祈りそのものも、わたしの中の聖霊が祈っている。「聖霊」はヘブライ語で「風」や「息」と同じ言葉です。神の命の息を吹き入れられ生きるものとなった人間には、いつも聖霊がはたらいています。それはたつきは風のように、見えなくてもそこにあり、思いもかけない場面でやって来ます。目を凝らすと見えなくなり、目を閉じると体感じます。(定方)

16日には仙台地区はもろもろのこと遠く志家、白河教会の方も含めて22名のオルガン奏者が参加しました。「聖歌は自分の心の祈りを言葉にして表現し歌うこと、信仰告白と同じです。オルガン奏者は奉仕を行う時にミサ全体をどのようにかを考えた。欲しい音とリズムを、講師に国立音楽大学教授、渋谷教会音楽監督の小田賢二先生をお迎えして開催しました。

17日には山形と八戸塩町教会の方も参加し、「聖歌を歌う時には歌詞を三回読み、覚えてよく言葉の意味を理解し歌詞を意識しながら歌うことを積み重ねて続けてください。主を

実践した時間を過ごし、またこの研修会を通して他教会の信徒の方がたと共に学び有意義な交わりの時を与えられた恵みに感謝して終わりました。(京 早苗)

宮城県 東仙台教会

典礼研修会を開催して

5月16日(土)に「ミサにおけるオルガン奉仕の実践」、17日(日)に「典礼聖歌歌唱指導」を、講師に国立音楽大学教授、渋谷教会音楽監督の小田賢二先生をお迎えして開催しました。

です。オルガン奏者は奉仕を行う時にミサ全体をどのようにかを考えた。欲しい音とリズムを、講師に国立音楽大学教授、渋谷教会音楽監督の小田賢二先生をお迎えして開催しました。

讚えることがより活き活きとできるように変わっていくでしょう」と話されました。小田先生のユーモアを交えた軽快な語り口と課題曲を使つての具体的な指導に充



活動紹介

東仙台教会

草刈と苗木の植樹

6月 日朝6時前、草刈のため皆が集まる。

教会敷地の雑草は伸び、綺麗に咲き誇るツツジの景色、皆の憩いの場所が見え隠れする。梅雨時を前に草刈の実施。前日に手入れした草刈機五台、熊手、箒、一輪車、リヤカーを前に各自の分担を確認、四ヶ所で作業開始。そこには一生懸命に働く人の姿が……信仰の恵みと喜びに満たされた共同体の集う場所「東仙台教会」作りを目指す強い願いが連帯感を深め互いの心をひとつとしてくれる。作業も終わりに婦人部の人達が心を込めた「ご飯に味噌汁、塩



私の気分転換

真夜中のストレッチ

松木町教会 定方 一悦

教師という職業のせいかわ、自宅で仕事をすることが多い。夜遅くなったり精神的に追い詰められたりすると一人でストレッチを始める。体幹の緊張をゆるめ、首の筋を一本ずつ伸ばし体を大きくゆつくり回す。浅くなっていた呼吸が少しずつ深くなっていくのがわかる。股関節をゆるめ骨盤を前に押し出すとへその下まで息が落ちる。

鮭納豆等、おいしく頂く。ミサ後教会のボーイ・ガールスカウト、ガールスカウトでサツキ苗木の植樹が行われた。緑の羽根募金還元金で購入した苗木。教会敷地内に綺麗に咲き誇るサツキで埋め腹の底から淀んだ澱のようなものが出てきていく。耳に響いていたキーンという音が消え夜の静かさが体にしみる。ほうつとため息をつく肩の力が抜けて自然にあくびも出てくる。ふと昔の出来事や古い友人などが脈絡なく心に浮かんで消えていく。そのまま眠れればぐっすり安眠できるのだが、そこからまた一仕事。夜空の向こうには明日がもう待っている。



尽そうとの大先輩の心を今も引き継ぎ毎年行われている。

(佐藤 定雄)

仙台中央地区広報委員会

共同宣教司牧の仙台中央地区6教会(元寺小路・東仙台・西仙台・八木山・畳屋丁・一本杉)の広報担当者が奇数月第2日曜日に元寺小路教会に集まって、中央地区共同の「お知らせ」(毎日曜日発行)の内容と中央地区独自で作っているホームページの更新内容について検討している。ホームページの作成について研修するため数年前から、シグニス・ジャパン(以下シグニス)が開催する「インターネット講習会」に毎年1・2名が参加している。

その流れで、昨年 月、元寺小路教会を会場にシグニスの主催で「教会とインターネットセミナー in 仙台」を開催した。

今年度は、さらに一歩踏み込んでシグニスに中央地区広報委員会として団体入会した。

今後、シグニスとの連携をとりながら、広報活動はもとより、福音宣教に資する活動を続けていきたいと考えている。(岩井)

計報

Sr. マリ・ジョゼフィン・ドウ・ラ・P

ロウイダンス O.P.



柳瀬 實子 (ドミニコ会ロザリオの聖母修道院)



人が壊されていく 日本社会と人のありようを考える 森一弘



三ツ谷 絢子 (シャルトル聖パウロ修道女会 院紫山修道院)

1949年4月 日 受洗

1958年4月 日 入会

1966年8月 日 終生誓願

2009年5月2日 帰天 歳

白百合学園中・高等学校や盛岡白百合学園中・高等学校で教諭、教頭を務め、1989年4月から仙台白百合学園小・中・高等学校の校長。1999年4月から紫山修道院長になる。いつも温かい柔らかな笑顔とユーモアで人に接し、心遣いの細やかな姉妹でした。

Sr. マリア・サルヴァトーレ



小笠原 綾子 (殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会)

1936年8月 日生れ

1956年 月 日 受洗

1966年3月 日 入会

1969年1月 日 初誓願

1976年8月 日 終生誓願

2009年5月 日 帰天 歳

新刊案内

『人が壊されていく 日本社会と人のありようを考える』 著者 森 一弘/発行 女子パウロ会/定価 700円+税

「人が壊されていく」というドキッとするような言葉にまず目を奪われてしましますが、これは著者が人や社会の動きを見て、心から痛感なさっていることだということが、伝わってきます。本書は、著者が行った二つの講演を一冊にまとめたものです。それぞれの講演タイトルは、「人が壊されていく」と旧約聖書の中の箴言の言葉から取られた「ビジョンのない民は滅ぶ」というものです。

若者たちの犯す犯罪が、目を惹いていますが、これは現代社会のひずみの影響を受けているからだと考えられます。著者は、その原因として、豊かさしか知らずに育った若者、地域共同体の衰退、競争の論理にむしばまれ、人に対する共感能力が育たない人々の存在、家族の求心力の低下、マスメディアの強い影響力、経済発展を最優先する価値観などを挙げています。

社会が抱えるこれらの重大問題を解決するには、一人ひとりが人の大切さに気づき、「人と出会い、人と語り、その悩みや悲しみ、喜びや希望に共感し合い、互いに寄り添いながら生きる」と、それが、人間にとって最も意味あるものであるということに、目覚める「こと」と著者は指摘しています。さらに、一人ひとりがビジョンや理念を持って日常生活を生き、次第にそれを国家レベルにまで広げていくことが必要だと訴えています。